

ぐるめ散歩

Weekend Green & Cafe

Weekend Green & Cafe (ウィークエンド グリーン アンド カフェ) は、観葉植物やドライフラワーなどで飾った明るい店内でドリップで入れたコーヒーと手作りケーキに加えパスタやピザ、ランチなどの軽食、ビールなどの酒類が楽しめるカフェ。

オーナーの小畑育史さん(39)は、生花店で働いた後、自分の店を開きたいと都内の



緑の中でゆったり味わう コーヒーやイタリアン

素材を使ったパスタやピザなどのイタリアン、フルーツを添えたケーキなどで、昼のランチプレートも人気。サラダなどの野菜はできるだけ泊江産を使っている。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に努めるほか、テイクアウトにも対応している。

小畑さんは「週末のように、ゆったりとした時間を過ごして」と話している。



観葉植物の販売もしている。

メニューはカフェラテ、ハーブティーなどのドリンクと旬の

おすすめMENU

ピザ=①マルゲリータ¥1,000 / チーズ¥1,200 / パスタ=②レモンクリーム/ツナとキノコのトマトソース/ペペロンチーノ各¥1,000 / 本日のライスプレート¥750 / ドリップコーヒー¥450 / ③カフェラテ/カプチーノ/ハーブティー各¥500 / ④ガトーショコラ¥500 (税別・丸中数字は写真参照)



☎050-1454-6214 猪方3-22-6 営業=午前11時30分~午後7時 木曜・第1・3水曜休み

三中の银杏募金が30周年

臭気に負けず学校ぐるみで作業に取り組む

泊江第三中学校(工藤聡校長、生徒246人)の生徒たちが、秋の恒例行事の银杏募金の作業を10月20日頃から取り組んでいる。

この募金は、雲仙普賢岳の噴火をきっかけに被災者救援のため平成3年から毎年行っているもので、ことしで30回を数える。市民まつりの会場で募金を行い、寄付者に返礼品としてギンナンを渡しており、毎年10数万円が集まる。以前は生徒会が中心だったが、昨年度から各クラスから選ばれた約30人の地域貢献委員が中心となり、生徒全員と教師らが作業を行う。

同校の校門と校舎の間に10本のイチョウ並木があり、民間の水道会社時代か

ら伝わる古い校門とともに「メモリーロード」と呼ばれて同校のシンボルになっている。4本のイチョウが実をつけるが、毎年10月第2週から運動部の生徒が落ちた実を集めて水に浸すのに続いて、下旬に保護者の協力でクレーンを使って実を落とす。実からギンナンを取り出す作業は、総合学習の一環として学年やクラス、部活単位で11月初旬まで行われる。実を取り出して水で洗う作業は強烈な臭気に伴うだけに、生徒たちはマスクをし、ゴム手袋をはめて熱心に取り組んでいる。1年生たちは「初めての体験で、3年生の先輩から作業を教えても



ギンナンを実から取り出す作業をする生徒たち

りました。臭くて大変だけど、三中の伝統なのでがんばって受け継いでいきたい」と話していた。

ギンナンは乾燥させた後、地域貢献委員とボランティアの生徒が袋詰めを行う。

ことしは、新型コロナウイルス感染症拡大防止で市民まつりが縮小されるため、募金活動は生徒に代わって

地域の社会奉仕団体が21日田にエコルマホールで催される市制施行50周年記念事業「音楽の街-泊江」特別コンサートなどイベント会場で行う予定。

9日から火災予防運動 コロナ対策用品に注意

「もう一度 確認 安心 火の用心」を合言葉に秋の火災予防運動が9日頃から15日回まで行われる。

泊江消防署では、住宅用火災警報器の設置や定期的な作動確認に加え、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に関して①消毒用アルコールを火気の近くで使用しないなど正しく取り扱う②飛沫防止用シートを火気や熱を発生する機器から離す、燃えにくい素材を選ぶなど、火災に注意するよう呼びかけている。

問い合わせ ☎3480-0119泊江消防署。

とれたて 農産物直売所

小町寛行さん(50)は、年間約30種の季節野菜とミカン、柿などの果樹を栽培し、通常はJAマインズと市内のレストランに出荷。収穫量が多い夏と秋・冬は畑横にある直売所で販売する。

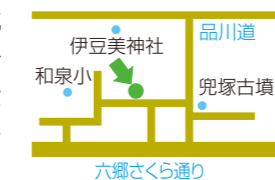
これからは大根、白菜、ニンジン、サラダカブなどの野菜、2種類の柿、温州ミカンのほか母の喜代子さんが作った白菜の漬け物も販売する。

小町さんは会社員だったが父の死を機に平成7年から就農している。同じ野菜を時期をずらして作付け、できるだけ端境期を作らないよう配慮している。レストランから頼まれてバターナッツや八丈オクラなど比較的珍しい野菜も栽培している。JAに出荷する場合は朝採りだが、直売では「夕食に新鮮な野菜を食べてもらいたい」と考えて、午後に収穫して農産物を並べる。



小町寛行さん

所在地=中和泉3-22 販売=11月中旬~12月と8月中旬の月・水・金曜日 時間=午後3時から完売まで



11月の 泊江農産物

里芋



秋から冬にかけて旬を迎える里芋は、煮物や汁物などに使われる。

食用にするのは主に地中の肥大化した茎の部分。でんぷんが主成分で食物繊維が豊富。縄文時代から栽培されてきたといわれ、大きさや形など種類もさまざま。

市内でも多くの農家が栽培し、10月から12月にかけて出荷する。

選ぶ時はふつくと丸みがあり、表面に傷のない、重いものが良い。保存は土付きのまま新聞紙などで包んで風通しが良い冷暗所などに置く。また、冷蔵庫での保存は痛みやすいので避ける。

あなたの「お宝」鑑定を

「出張!なんでも鑑定団in泊江」の応募受け付け

泊江市なんでも鑑定団実行委員会(白井真一委員長)が、令和3年2月21日エコルマホールで催す予定のテレビ東京の人気番組「開運!なんでも鑑定団」に出展する「お宝」を募集している。

泊江市制施行50周年記念事業として催すもので、泊江青年会議所シニアクラブ、泊江青年会議所、東京泊江ロータリークラブ、東京たまがわロータリークラブが6月に実行委員会を結成し、12人の委員が中心となって、100人の応募を目標に募集作業を進めている。

これまでに陶器や書画などの応募が寄せられているが、白井委員長は「美術品に限らないので、レコードや映画ポスター、昔の家電製品、海外旅行のお土産など

気軽に応募してほしい」と呼びかけている。

応募は一人で何点でも可能で、市外の人でも良い。市役所などに置いてある申込書に写真を添付し、実行委員会事務局(〒201-8585 泊江市和泉本町1-1-5市役所地域活性課内)へ郵送または持参する。締め切りは12月10日(必着)。

申し込み・問い合わせ ☎3430-1111、Eメール Mchiikikk01@city.komae.lg.jp泊江市なんでも鑑定団実行委員会事務局。

市役所で絵手紙公募展 ロビーに約3,700枚

絵手紙公募展の展示が9月27日頃から30日頃まで市役所2階ロビーで行われ、全応募作品約3,700点が並べられた。

エコルマホールで9日(必着)



市役所2階ロビーの絵手紙公募展

ら11日頃まで催されたのに続くもので、市役所を訪れた市民たちはロビーを埋め尽くすように展示された絵手紙を1点ずつ熱心に鑑賞していた。

新・市民憲章スタート 普及めざして除幕式

市民憲章板除幕式が10月1日(必着)に泊江市役所前市民ひろばで催された。

45年ぶりに見直しを行った新しい市民憲章がこの日から改定されるのに併せて実施された。松原俊雄

市長と泊江市民憲章見直し検討委員会の石黒健司委員長が除幕すると会場の関係者から拍手が起きていた。

松原市長は「市民憲章は市民の心のよりどころであり、泊江市の目指す姿を対外的に示すものです。末永く唱和し、泊江に住んで良かったと思えるまちづくりを進めていきましょう」、石黒委員長は「みなさんにわかりやすい、時代に合った憲章になったと思うので、ぜひたくさんの人に親んでもらいたいです」と呼びかけていた。



市民憲章板と松原市長(左)、石黒委員長